

ある読者からのおたより③

傷は他者との出会い、経験を通すことでしか生まれないはずだが、なぜか我々はいつのまにか傷ついていることもある。それどころか知らぬ間に致命傷にまで至っていることすら往々にしてあるのではないだろうか。

権力、差別、隔離……こういった傷を生み出す現象に「他者」は存在するのだろうか。

こうした傷においては特定の個人よりも目に見えない他者が、例えば社会や制度、システムとかいったものが傷を生み出す主体となっている。だが認識不可能な他者によって生み出された傷は自己との差異を表さない。認識不可能なものによって新たな認識が生まれることはあり得ない。見えない誰かによって負った、しかし確かに在る傷。なんの経験も通さずに付与された属性は、傷(属性)そのものに依存したアイデンティティを生み出してしまいうだろう。過程が無く結果しか存在しないので、結果に依存せざるを得ないのだ。例えば何かの被害者が「無意識のうち」に「同様の被害を生み出す加害者になってしまおうような「傷を内面化した自己」だ。そして内面化された傷は新たな傷を、他者だけでなく自己にもつくる。

内面化されてしまった傷を表面化する作業は、他者との出会いや経験のなかでしか行えないのではないだろうか。自己のなかにある、痛みを伴う属性や思考を、無意識から発見する作業だ。

(4へ続く)

第3回「翔んで在宅」

訪問看護 彩 主催イベント

川越市南大塚にある、訪問看護ステーション彩さん主催のイベントに参加させていただきました。テーマから派生し、ジョハリの窓、依存関係、ケアとセラピー、伴奏型支援等、様々な内容が共有されました。

第3回『翔んで在宅』
参加費無料



6/21(金)
15:00~16:00
＜開催場所＞
訪問看護ステーション彩

応募締め切り
5/31(金)

利用者様のモチベーションを上げるにはどうすれば良いのか？
～ HOPEが「ない」という方へのアプローチ ～

対象:ケアマネジャー、相談員、医療従事者等(定員:20名)

イベント内容

【パネルディスカッション形式】

パネリスト:訪問看護ステーションスクラム 管理責任者	菊地嘉通氏 (Na)
訪問看護ステーションヨハク 代表理事	戸田竜也氏 (OT)
訪問看護ステーション彩 代表取締役副社長	小松智也 (PT)

- モチベーションが上がらない方への対応は？ 関わりの中で大事にしている事は？
- パネリストの意見や質疑応答 (25分)
- 名刺交換 (5分)
- 参加者から挙げた困難事例に対するパネリストとの意見交換 (25分)
- まとめ (5分)

＜お問い合わせ＞
参加お申し込みは
googleフォームにて

訪問看護ステーション彩 (いろいろ)

お申し込みは
こちらから→

049-293-3071

住所: 川越市南大塚3丁目1番地25 <担当: 小松・長村>

深谷太一弁護士 連載コラム⑤

【精神医療・福祉分野の人権】



今回はヨハク代表者・戸田さんから、人権について書いて欲しいとのリクエストがあり、このテーマで書かせていただきます。引き続き、読者の皆様からのご質問やご意見もお待ちしていますので、ぜひお願いします。

「障害者の権利に関する条約」に、「障

害」のある人が社会参加することを妨げるさまざまな障壁があり、このような障壁が「障害」を引き起こす一つの要因ともなっている」と指摘されています(同条約前文⑥)、(㉙)。精神医療・福祉の分野では、当事者がさまざまな面で社会参加することが難しい状況にあると考えています。

たとえば、先日、精神医療・福祉の今後のあり方を検討する厚生労働省の検討会を傍聴してまいりました。検討会のメンバーは、ほとんど全員が、専門家や支援者と呼ばれるような立場の人であり、「障害」があるときされる当事者の声がどこまで届いているのか、疑問を持ちました。

これはほんの一例ですが、「障害」があるときされると、さまざまな面で社会参加が難しくなっている状況について、読者の皆様からも経験談やご意見などをお聞きできたらと思っています。(次号に続く)